

桐生西ロータリークラブ週報

2008-09年度RIテーマ

李東建(Dong Kurn Lee) RI会長 夢をかたちに



例会日時 毎週金曜日 12:30～13:30
 例会場・事務所 桐生市堤町3-5-23 桐生プリオパレス
 TEL 0277-22-9155 ・ FAX 0277-44-2777
 Eメール kiryu-nishi@rid2840.jp URL http://www.rid2840.jp/kiryu-nishi
 会長 田崎 武夫 クラブ会報・雑誌委員長 片貝 良一
 幹事 栗原 幸三 委員 星野 幸男

No. 1710

2009年1月30日発行

第1814例会 (2009・1・23) 報告

- | | |
|------------|---------------------|
| 1. 点 鐘 | 6. 食 事 |
| 2. ローターソング | 7. 委員会報告 |
| 3. 来訪者紹介 | 8. 卓 話 群馬大学教授・楠元一臣様 |
| 4. 会長報告 | 9. 点 鐘 |
| 5. 幹事報告 | 10. ローターソング |

◆ビジター

群馬大学教授 楠元一臣様

◆会長報告

田崎会長

1. 去る20日、米国では初の黒人大統領が44代目に就任致しました。世界不況の震源地の回復に、どのような手腕を発揮されるのか注目したいと思います。
2. 今日の上毛新聞に『華山の足跡踏破』というタイトルで、江原副会長一行が日本橋まで歩かれた記事が載っております。渡辺華山が幕末に江戸から桐生を歩いた道ゆりを体験されたそうです。詳しくは本日のクラブ会報をご覧ください。
3. 忘年家族会での寄付金を希望の家に寄付することに理事会で決まりました。後日社会奉仕委員長と共にお届けして参ります。
4. 只今サンディエゴで国際協議会が開催されております。19日の本会議で次年度RI会長のジョン・ケニー氏(スコットランド)より、RIテーマが発表されたそうです。次年度のテーマは『ロータリーの未来はあなたの手のの中に』だそうです。PETSは3月14・15日、地区協議会は5月16日、ガバナー公式訪問は根本次年度地区役員の情報に依りますと8月21日らしいとの事です。

◆幹事報告

栗原幹事

- ◇忘年家族会決算書を配布致しました。
- ◇坪井良行会員より老眼鏡、ペン立て、色鉛筆、クリップ等、たくさんクラブに寄付して頂きました。
- ◇わたらせ養護園チャリティショークット販売にご協力下さい。
- ◇ロータリーレートは2月も1ドル88円です。
- ◇ハイライトよねやま107号が郵信されました。(各テーブルに配布)
- ◇ロータリー囲碁同好会より「神戸国際囲碁大会」のご案内、スパリゾートハワイアンズより「山海館」のご案内、サンエス技研より交通安全・防犯用品のカタログ、社会保険ぐんま1月号、以上のものが届いております。

◇例会変更のお知らせ 富岡かぶらRC 2/24

◇クラブ会報が到着しています

桐生RC 1/19 桐生南RC 1/14

桐生赤城RC 1/13 足利RC 12/5,12/12,12/19,12/26

◆食事メニュー

1201キロカロリー

ポークソテーきのこソース、ニョッキのトマトソース、白飯、カニサラダ、玉子と根菜のスープ、香の物、本日のデザート

◆委員会報告

□出席委員会

稲森委員長

総数53名(免除者8名のうち3名出席の為5名を除く)
 出席率対象者48名、出席率対象者出席人数39名
 欠席者9名(内前メイク0名) 出席率81.25%
 前々例会修正出席率100% (初例会全員登録の為)

□ニコニコBOX委員会

近藤委員

群馬大学・楠元教授の卓話を楽しみにしています。
 栗原君、稲森君、霜村君、片貝君、
 中野君、近藤君、家住君、坪井君
 春近し 田崎君

□ロータリー財団委員会

天沼委員長

群馬大学・楠元先生、卓話ありがとうございます
 稲森君、船戸君、坪井君
 もうすぐ旧正月です 田崎君
 春が訪れてきました 江原君
 今月はロータリー理解推進月間です 栗原君

□米山奨学委員会

霜村委員

群馬大学・楠元教授、卓話ありがとうございます
 田崎君、江原君、稲森君、船戸君、坪井君
 会員の皆様いつもお世話になります 栗原君

《次例会予告》

2月6日(金) 外部卓話
 桐生警察署 署長 桑子福一様

卓 話



群馬大学教授
楠元一臣様

「元気に転がれ まゆ玉」

私は九州宮崎の生まれです。学生時代を戸畑で過ごし、そして大阪で過ごし、流れ流れて平成4年に桐生に来ました。別に親戚が居るわけでも知り合いが居るわけでもありません。ある時、桐生祭りを盛り上げたいという某青年会議所の方と縁あって知り合い、私も学者として何か考えてみましょうという事になり、その時、提案したのが『まゆ玉ころがし』でした。

今年も行う予定ですので13回目になります。最近不況の波が押し寄せてきて、設立の頃の思いと同様、子供たちが精一杯転がしているまゆ玉を見て、桐生も盛り上がり元気に発進してくらたら良いなあと思い、このタイトルにしました。

平成8年に青年会議所の方と出会いまして、北大の学生さんが札幌の『よさこいソーラン』を考え出したように、群大の学生さんでも何か出来ないですかと、相談されました。丁度まゆ玉の構造をした桐生市市民文化会館が出来る頃でしたので、地元の織物に因んだまゆ玉のイベントで、誰でも参加出来るものと考えてみましょうという事になりました。

そんな経緯で、平成9年の第1回目は、参加者50名7チームで取り敢えず行ってみたと、評判が良く、継続することになり、4回目から本格的に資金集めを行い用具の整備等始めました。5回目では群大工業会桐生支部(同窓会)からたくさん支援して頂きました。

第8回では高校生が積極的に参加してくれる様になり、参加チームは60を越え、参加人数も約500人に増えました。全国ネットのフジテレビの朝の番組『めざまし調査隊』にも取り上げられ、九州の実家や親戚、ニューヨークに滞在している知人からも、私がテレビに出ているのをみてビックリしたと連絡をもらい、その反響の大きさに驚きました。

第9回ではファッションタウン賞を受賞し、名実共に桐生祭りの1つに入れた感があります。更に第10回では世界にも発信しようということで、群大留学生の力を借りたり、シルクで有名な中国蘇州から大学の先生をお呼びして記念講演を行ったり、大会を盛り上げました。また和菓子屋さんでまゆ玉最も売られました。

『まゆ玉ころがし』の会場は有鄰館を起点にして、本町2丁目の通りを、大人は200m、子供は100m転がしてタイムとパフォーマンスを競います。まゆ玉の大きさ(高さ1m×幅2m)以外、規定はありません。

『まゆ玉ころがし大会』の意義を考えてみました。



我々はキャンパスで授業をしたり研究を行っています。最終的には人間の成長だと思えます。私はずっと親元を離れて暮らし、自分の成長の過程で地域との思い出が今でも残っています。群大生も全国各地から集まって来ていますので、彼らもこの桐生が第2の故郷となって良い思い出になれば良いと思い、これを進めることにしました。当時は学生さんが街中に出ていく機会が少ない状況でしたので、お祭りを通して地域との交流が図られ、新たな発見や社会勉強ができて、人間形成に繋がり、更には大学のある街づくりも進められる訳です。

まゆ玉ころがしを終えていつも思う事は、協力者や理解者の支えです。人の出会いの大切さ(運命感)、期待に応える(使命感)、協力して積み上げて行く(進歩感)、みんなで共有した(達成感)、喜んでもらえる(満足感)、そして市民としての存在感を味わっています。今後は全国大会や世界大会にもって行けたらと思っています。それには市民参加による専門集団をつくって、地域がまとまって進めて行くことが必要です。そうすれば桐生の特色として定着していくと思います。

最後は人としての創造、独創です。人のやることを真似ている様ではダメです。頭を使って取り組み、発案し伸ばして行くこと、それが大切だと思います。

メンバーは今!! No. 17

藍原博士会員



藍原さんは平成10年7月10日入会し、平成15年に退会、同年7月4日に再入会した。初入会時はプリオパレスのフードマネージャーで社命により入会した。この時には例会の食事の改善に取り組み、食事のカロリー表示を導入した。プリオパレス退職と同時に退会したが、半年後再入会し、副、正SAA、米山奨学委員長を務めている。社命で在籍した時には表立った活動は極力控えていたが、再入会後はクラブの活動に精一杯努力しているようで、生来の真面目さが生きてくるようである。しかし、自営の和風レストランが多忙で、なかなか例会に出席する時間が取れず、クラブ歴10年になってクラブの奉仕に真剣に務めたいと思いつつ、思うようにならないジレンマがあり心苦しく感じていると話す。

今日の景気減退で外食産業もなかなか厳しい状況ではあるが、自営のレストランは地域密着型の経営方針を貫いて、地域での宴会に使われることが多く、地域のサロンとしての役割をはたして、皆さんに喜ばれているそうである。これは職業奉仕、更には社会奉仕の実践そのものであると思う。願わくは多忙の中にもロータリー活動に打ち込める時間的余裕ができて、西クラブの発展に寄与してもらいたいと切に思う。

クラブ会報・雑誌委員長 片貝良一